

統合的管理機能を有する高効率全光ネットワークの研究開発（株式会社 東芝）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
14 - 10	A	<p>光ネットワークのアーキテクチャから、それを構成する部品まで、総合的な研究開発が行われており、新規性・将来性の高い技術も生まれつつあり、中間評価としては良好であると思われる。ただ、研究開発の盛んな分野であり、現時点では他技術を排除できるほどの優位性を確立しているわけではなく、今後も激しい競争が予想される。海外での学会活動、論文誌投稿を積極的に行うことが標準化、事業推進に不可欠であり、より一層の取り組みが必要であると思われる。個別技術の単体としての製品化の可能性も検討されたい。</p> <p>受託企業内では、製品化する事業部や事業展開する組織が明確であり、事業化の確実度は大きい。研究開発成果のネットワークへの適用範囲にも柔軟性があり、本製品の導入をタイミング良く実現できれば、市場性はあるため、収益の期待度は妥当なレベルであると評価できる。なお、製品は原価比率が高いが、費用面での低コスト化を進めることで、企業への収益性を高める努力を行うことが望ましい。</p>		